

如何描写日语复合动词的语义¹

杉村 泰
疏 蒲剑

DOI: 10.18999/stul.34.5

1. 前言

日语 V-V 型复合动词（以下简称“复合动词”）是一种形式上由前项动词（V1）的连用形与后项动词（V2）结合而成的动词，V1 与 V2 存在各种各样的结合方式，如「嘆き悲しむ」表示“叹息的同时感到悲伤”，「切り倒す」表示“通过砍的行为让其倒下”，「食べ始める」则表示“开始吃”。从这点来看，复合动词与原动词（单纯动词）相比，意思是多层的。为此，当我们描写复合动词的语义时至少需要考虑以下 5 点。

① 前项动词与后项动词的语义关系

即：前项动词与后项动词在语义上是如何结合起来的

（例）「裾を折り返す」意为“将下摆折起使其翻过来”，「相手の頬を殴り返す」表示“（因为自己被打，所以）自己还击对方的脸颊”

② 复合动词与原动词的语义对应

即：复合动词整体与后项动词单独作为原动词使用时在语义上是如何对应的

（例）「V1-返す」与「返す」

③ 复合动词的多义结构

即：具有同一后项动词的复合动词之间的语义网络

（例）「（土を）掘り返す」、「（悪口を）言い返す」、「（盗品を）取り返す」、「（光が）照り返す」、「（本を）読み返す」等

④ 近义复合动词的语义关系

¹ 本文以中国日语学习者受众，对杉村（2016）进行了改动，其中，第 8 节为本文新增内容。

即：某一复合动词和意思相似的复合动词之间的语义上的差别

(例)「取り返す」与「取り戻す」、「読み返す」与「読み直す」

⑤ 存在自他对应的复合动词的语义对应

即：后项对词为成对动词时，当其为他动词和自动词时复合动词在语义上的对应关系

(例)「V1-返す」与「V1-返る」

同时，如下面⑥所说，我们还需要描写不能使用复合动词的情形，这点与上述①～⑤各点都有关系。特别是在日语教育中，何时可以使用复合动词，何时不能使用复合动词尤为重要。原因在于，日语学习者可能会这样考虑：既然能说「飲み込む」之后，那么应该也能说「*食べ込む」，既然能说「駆け上がる」，那么应该也能说「*走り上がる」。为了防止或订正这样的误用，有必要对不能使用的情形进行描写。

⑥ 不能使用复合动词的情形

即：V1+V2 的结合限制以及与复合动词共现的名词短语的限制

(例)「取り戻す」和「取り返す」都两者都可以说，但虽然能说「買い戻す」，却不能说「*買い返す」，可以说「盗品を取り返す」却不能说「*青春を取り返す」等

以下各节将按照上述①～⑥的顺序依次进行说明，最后我们将以复合动词「V1-返す」为例尝试对复合动词的语义进行描写。

2. 前项动词与后项动词的语义关系

复合动词 (V1+V2) 由两个动词结合形成一个动词，前项动词 (V1) 与后项动词 (V2) 的语义结合存在多种方式。关于这点我们将在概观先行研究的同时进行讨论。

寺村 (1969) 通过 V1 和 V2 分别「自立語として独立に使われる時の意味がそのまま保持されているか、否か(中译:是否保留其作为独立词进行使用时的意思)」(p. 43), 将复合动词分为如下 (a)～(d) 4 种类型。

- (a) 自立V+自立V (例: 走り去ル、持ちアゲル)
単に二つの動作が連結して表現されているもの
(中译: 独立V+独立V (例: 走り去ル、持ちアゲル))
两个动作单纯连接起来进行表达的复合动词)
- (b) 自立V+付属V (例: 走り込ム、見上ゲル)
第2の要素はふつう独立して使われない形であるか、もしくは独立して使われる時の意味を失ってしまい、単に前のVのあり方を限定しているに過ぎない場合
(中译: 独立V+付属V (例: 走り込ム、見上ゲル))
第2个要素一般不独立使用, 或者失去了独立使用时的意思, 仅用来限定前面的V的样态时)
- (c) 付属V+自立V (例: トリ押サエル、打ち眺メル)
本来の実質的な意味を失い、接頭語化して、後半の実質的な意味を担うVに何らかのいわばニュアンスを加える役目をしている
(中译: 付属V+独立V (例: トリ押サエル、打ち眺メル))
前面的V失去了原来的实际意思, 演变成前缀, 负责对后面承担实际意思的V添加某些类似语感的東西)
- (d) 付属V+付属V (例: トリナス、ノリ出ス)
どちらが主要な意味を担うとも言い難く、むしろ一語として不可分離なもの
(中译: 付属V+付属V (例: トリナス、ノリ出ス))
很难说哪一个V承担了主要的意思, 更近于一个不可拆分的词)
(整理自寺村(1969))

对此, 山本(1984)认为: 「寺村の分類法は、(中略) 問題点は各要素が自立語として用いられている時の意味を保持しているか、もしくは失っているかをどのように判断するかが明確ではないことにある(中译: 寺村的分类方法(中略), 其问题在于: 判断复合动词的各要素作为独立词使用时的意思是得以保留还是丢失, 其方法并不明确)」(p. 33), 因此, 山本通过复合动词的格成分与前项动词及后项动词存在的对应关系, 借助格支配这一客观的标准将复合动词分为如下4类。

I 類: 複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のそれぞれと対応する。

(中译: I 类: 复合动词的格成分分别对应前项动词和后项动词。)

(例) 子供が泣き叫ぶ $\left\{ \begin{array}{l} \text{子供が泣く} \\ \text{子供が叫ぶ} \end{array} \right.$ 雪が降り積もる $\left\{ \begin{array}{l} \text{雪が降る} \\ \text{雪が積もる} \end{array} \right.$

II 類: 複合動詞の格成分が前項動詞とは対応するが、後項動詞とは対応しない。

(中译: II 类: 复合动词的格成分对应前项动词, 不对应后项动词。)

(例) 部屋が静まり返る $\left\{ \begin{array}{l} \text{部屋が静まる} \\ \text{*部屋が返る} \end{array} \right.$ 雨が降り出す $\left\{ \begin{array}{l} \text{雨が降る} \\ \text{*雨が出す} \end{array} \right.$

III 類: 複合動詞の格成分が後項動詞とは対応するが、前項動詞とは対応しない。

(中译: III 类: 复合动词的格成分对应后项动词, 但不对应前项动词。)

(例) 不幸が打ち重なる $\left\{ \begin{array}{l} \text{*不幸が打つ} \\ \text{不孝が重なる} \end{array} \right.$ 期限が差し迫る $\left\{ \begin{array}{l} \text{*期限が差す} \\ \text{期限が迫る} \end{array} \right.$

IV 類: 複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のいずれとも対応しない。

(中译: IV 类: 复合动词的格成分与前项动词和后项动词都不对应。)

(例) 味が引き立つ $\left\{ \begin{array}{l} \text{*味が引く} \\ \text{*味が立つ} \end{array} \right.$ 良夫が取り乱す $\left\{ \begin{array}{l} \text{*良夫が取る} \\ \text{*良夫が乱す} \end{array} \right.$

(转引自南(2015)整理山本(1984)的内容)

在此基础上, 山本(1984)指出: 「寺村のいう「付属」語化あるいは従来からよくいわれてきた動詞の接頭・接尾語化という現象は、実は格支配能力の欠落であるということも指摘した(中译: 寺村所说的“附属”词化, 或者之前经常被提及的动词的前缀、后缀化现象, 其实就是格支配能力的缺失)」(p. 47), 但山本(1984)自身也认为「この分類によっても処理できない複合動詞の例がまだいくつかある(中译: 有几个复合动词无法用这一分类进行处理)」(p. 47), 并举出了「男ガ(一晩中)飲ミ明カス=男ガ(酒ヲ)飲ム+男ガ(夜ヲ)明カス」和「正夫ガリンゴニカジリツク/正夫ガリンゴ{*ニ/ヲ}カジル/*正夫ガリンゴ{*ニ/ヲ}ツク」等例子。然而, 尽管有这些特殊存在, 描写 V1 与 V2 的格支配能力, 对于描写复合动词的语义也非常重要。

另一方面, 森田(1990)举出了一些复合动词的例子, 这些复合动词虽然具有相同的 V2, 但是「その動詞の表す意味の転化の度合い、両語の意味関係の在り方(中译: 该动词所表示的意思的转化程度以及两个词之间的语义关系)」存在不同之处。下面的

(ア)～(ウ)中的「V1-落とす」为森田所举的例子。

(ア)「落とす」本来の意〈落下サセル〉をそのまま留めているもの「…して落とす」と訳せる(「突き落とす」は「突いて落とす」の言い換えが可能)。

(中译:「落とす」的本义“使……落下”得以保留,可译为“(进行某动作)使……落下”(「突き落とす」可替换成「突いて落とす」)。

例 突き落とす、撃ち落とす、切り落とす、叩き落とす

(イ)「落とす」の意味にやや発展がみられるが、やはり「…して…する」の意味関係をとるもの(「泣き落とす」は「泣いて落とす」とは言えない)。

(中译:「落とす」的意思看上去略有发展,但复合动词仍然具有“通过做某动作而进行…”的语义关系(「泣き落とす」不能说成「泣いて落とす」)。

例 攻め落とす、泣き落とす、くどき落とす、産み落とす

(ウ)「落とす」の意味がさらに発展し(漏ラスの意)、「…することを漏らす」の意味関係となるもの。

(中译:「落とす」的意思进一步发展(漏掉之间),语义关系为“漏掉做…”)。

例 言い落とす、聞き落とす、見落とす、読み落とす

(摘自森田(1990))

在此基础上,森田(1990)将复合动词的V1与V2的关系分为如下5个阶段。

第1段階 並列関係(中译:第1阶段 并列关系)

両動詞が対等の関係で並列する「…して…する」形式(中译:两个动词以对等的关系并列“做……做……”的形式)

〈動作・作用の順次性〉「…してから…する/…になってから…になる」(中译:〈动作或作用的顺序性〉“做……再做……/成为……之后再成为……”)

(例) 追いつがる、寄りすぎる、燃え移る

〈手段・方法〉「…することによって…する」(中译:手段或方法“通过做……而做……”)

(例) 押しあける、言い広める、踏み固める、掃き清める、なぐり殺す

〈行為の結果〉「…することで…することになる/…した結果…となる」(中译:
〈行为的结果〉“因为做……而做……/做……的结果导致……”)

(例) 寄り集まる、言い当てる、食い荒らす、降り積もる、泣きぬれる、
着ぶくれる

〈イコールの関係〉「…すること、…すなわち」(中译:〈相等关系〉“做……,
就是做……”)

(例) 貸し与える、切り刻む、言い聞かせる、書きしるす

〈動作の状態〉「…し、かつ…する」「したり…したりする」または「…ながら
…する」「…ながら…となる」(中译:〈动作的状态〉“做……且做……”“做
……或做……”或“一边……一边……”“一边……一边变得……”)

(例) 照り輝く、鳴り響く、恋い焦れる、驚きあきれる、泣き叫ぶ、咲き
匂う

(例) 浮かれ歩く、遊び暮らす、泣き明かす

第2段階 主述、補足の関係(中译:第2阶段 主谓、动补的关系)

「…することが…だ」「…することが…となる」(中译:“做……是……”“做…
…变得……”)

(例) 思い余る、吹き荒れる、売れ残る

「…することに…だ」「…することに…となる」(中译:“对于做……(感觉)…
…”“对于做……变得……”)

(例) 見飽きる、し慣れる、読みふける

「…を…する」(中译:把……如何)

(例) 書き誤る、売り急ぐ、見交す

第3段階 具体的意味から抽象的意味へ(中译:第3阶段 从具体的意思到抽象的
意思)

主述関係や補足関係を取る複合動詞のうち、複合するどちらか一方の動詞が
本義から離れて転義的に用いられている例(中译:前后为主谓关系或动补关系
的复合动词中,参与复合的某一方动词远离本义而作引申义使用的例子)

(例) 降りだす、書きあげる、塗りかえす、走りぬく、やりつける、やり
かける、歩きとおす、言いかねる、言いくるめる、言いまくる

第4段階 造語成分への移行(中译:第4阶段 向造词成分的转移)

下線部が、それ自体独立した動詞としては用いられないが、複合語の中で生き残り、しかも実質的意味をまだ残している場合（中译：划线部分虽然其本身不能作为独立的动词使用，但保存在复合词当中，而且其实际意思依然有残留）

（例）考えあぐねる、言いそびれる、言いならわす

第5段階 実質的意味から形式的意味へ（中译：第5阶段 从实际意思转为形式上的意思）

実質的意味を失い、形式化された例（中译：失去了实际意思，而变成形式的例子）

（例）叱りとばす、わめきたてる、恐れいる、どなりちらす、かき曇る、おし進める、うち続く

（摘录整理自森田（1990））

森田（1990）所示的五个阶段是一种暂定标准，实际上要清楚地区分各个阶段是很困难的。但是，他指出复合动词的V1和V2的复合存在各种各样的类型，这点很重要。在进行复合动词的语义描写时，有必要在寺村（1969）和山本（1984）的4分法基础上更进一步，采取类似森田（1990）的精细分类法。同时，对于与上文提到的「V1-落とす」类似的具有相同V2的复合动词，其多种意思间的区别，也有进行描写的必要。

同时，由本（1996）认为：词汇性复合动词中组成复合动词的两个动词间的语义关系，大致可归为以下5种类型中的一种。

A. 並列関係：V1+V2 ⇒ LCS1 AND LCS2 (t1=t2)

同じイベント構造のLCSで表されるもの同志(ママ)の合成に限られ、項の同定も同じθ役割同志でしかももれなく行われなければならない

（中译：A. 并列关系：V1+V2 ⇒ LCS1 AND LCS2 (t1=t2)）

限于相同事件结构的LCS所表示的动词之间的合成，项的定性也必须在同具有θ功能的动词之间进行，并且没有遗漏。）

e. g. 請い願う、忌み嫌う、思い描く、あわてふためく、泣き叫ぶ、耐え忍ぶ、驚きあきれる、恐れおののく、恋い慕う、ほめ讃える

B. 付帯状況：V1+V2 ⇒ LCS2 WHILE LCS1 (t1=t2)

項の同定は同じθ役割のもの同志に限られ、付帯状況の解釈が不可能なアス

ペクト素性を含んだり、結果状態に焦点がある V1 だと容認されにくい

(中译: B. 附带状态: $V1+V2 \Rightarrow LCS2 \text{ WHILE } LCS1 (t1=t2)$)

项的定性仅限于同具有 θ 功能的动词,如果 V1 包含无法进行附带情况解释的相的属性,或者焦点在于结果状态,则难以被接受)

e. g. 譲り渡す、払い戻す、遊び暮らす、待ち暮らす、這い寄る、すすり泣く、群れ遊ぶ、笑いころげる、降り注ぐ、並び立つ

C. 手段・様態: $V1+V2 \Rightarrow LCS2 \text{ BY } LCS1 (t1 \geq t2)$

意図的行為を表す動詞 (LCS では CONTROL 関数で表される) 同志

(中译: C. 手段或样态: $V1+V2 \Rightarrow LCS2 \text{ BY } LCS1 (t1 \geq t2)$)

表示带有目的性的行为的动词 (LCS 中表示为 CONTROL 函数) 之间)

e. g. 切り倒す、吸い取る、追い払う、追い抜く、蹴り倒す、勝ち取る、飲み倒す、飲み干す、寝取る、泣き落とす、競り落とす、泣きはらす、言い負かす、笑い飛ばす

D. 因果関係: $V1+V2 \Rightarrow LCS2 \text{ FROM } LCS1 (t1 \geq t2)$

V2 は状態変化を表すもの (LCS では BECOME 関数で表される) に限られる

(中译: D. 因果关系: $V1+V2 \Rightarrow LCS2 \text{ FROM } LCS1 (t1 \geq t2)$)

V2 限于表示状态变化的动词 (LCS 表示为 BECOME 函数))

e. g. 着膨れる、遊びくたびれる、泣きぬれる、溺れ死ぬ、流れ着く、降り積もる、抜け落ちる、寝静まる、逃げ失せる、飲みつぶれる

E. 補文関係: $V1+V2 \Rightarrow [LCS2 \dots [LCS1] \dots]$

LC において、V2 は変項として Event 項を含む他動詞か非対格自動詞

(中译: E. 补句关系: $V1+V2 \Rightarrow [LCS2 \dots [LCS1] \dots]$)

在 LC 中, V2 是作为变量包含 Event 项的他动词或非对格自动词)

e. g. 響き渡る、知れ渡る、見逃す、読みさす、書き落とす、使い果たす、沸き返る、使いこなす、寝付く、見落とす、呼び習わす

(摘录整理自由本 (1996))

虽然区别词汇性复合动词和句法性复合动词未必容易,但对 V1 和 V2 的语义关系进行这样的整理,对于描写复合动词的语义具有重要意义。采用词汇概念结构可以有效地

比较日语与汉语等其他语言中的 V1+V2 的结合方式，也可以应用于那些将日语与学习者的母语进行对比以描写复合动词语义的研究中。

此外，石井（2007）认为：「複合動詞が、動詞のアスペクトおよびヴォイスにかかわるカテゴリーカルな語彙的意味のくみあわせを土台にして形成される（中译：复合动词形成的基础是与动词的相和态有关的范畴性词汇意思的组合）」（pp. 49-50）。石井提倡「複合動詞形成の《アスペクト・ヴォイス》モデル（中译：复合动词形成的《相/态》模型）」。关于复合动词的 V1+V2 的结合，从相和态的角度进行的论述在前人的研究中也能见到，通过对观点进行整合，可以实现复合动词的类型化和系统的记述。

如上所述，在描写复合动词的语义时，我们有必要观察前项动词与后项动词是通过何种关系（格支配、相、态等）实现结合的。

3. 复合动词与原动词的语义对应

描写复合动词的语义，需要观察复合动词（V1+V2）与其后项动词（V2）作为原动词使用时的差别。如（1a）中既可使用原动词也可使用复合动词，但（1b）仅使用原动词，（1c）仅使用复合动词。原动词和复合动词可以共现的名词短语存在差别。

- (1)a. 硬い肉を {切る/噛み切る}。
- b. スタートを {切る/*走り切る}。
- c. マラソンコースを {*切る/走り切る}。

下面的（2a）中的「直す」只能表示一次修理，但「修理し直す」则表示将已经修理过一次的物品再次进行修理，二者的意思是不同的。如果用两个动词复合起来描述一次修理，则必须采用类似「修理して直す」的「V1 テ V2」形式。另外，（2b）只能使用复合动词，（2c）只能使用原动词。

- (2)a. 壊れた車を {直す/修理し直す/修理して直す}。
- b. 別の店で酒を {*直す/飲み直す}。 / 患者の容体が {*直す/持ち直す}。
- c. 機嫌を {直す/*戻し直す}

下面的（3a）和（3b）相比，区别在于原动词「乗る」的对象使用ヲ格，而复合动词「乗り回す」的对象采用ニ格。

- (3)a. 車に {乗る/*乗り回す}。
- b. 車を {*乗る/乗り回す}。

进一步比较(4a)和(4b),我们会发现二者的区别在于:原动词不能使用他动词形式「出す」,只能使用自动词形式的「出る」,而在复合动词中,其V1如果是「飛ぶ」,V2使用他动词形式「出す」,V1如果是「走る」,V2使用自动词形式「出る」。

(4)a. 子供が急に車道に{*出した/飛び出した/*走り出した}。

b. 子供が急に車道に{出た/?飛び出た/走り出た}。

如上所述,复合动词和原动词在意思上未必呈现简单的一一对应关系。因此,我们有必要对其逐一进行细致的记述,将性质相似的词分成若干类型。

4. 复合动词的多义结构

复合动词中既存在类似「V1-始める」和「V1-疲れる」的一般只存在单个意思的词(有例外,如经济用语「株が 売り疲れる」),也存在类似「V1-込む」、「V1-上げる」、「V1-かける」、「V1-落とす」、「V1-返す」的根据V1中的动词不同而拥有多种意思的词。这些词如(5)~(9)所示,与V2中的原动词的多义性相结合,可表达各种各样的意思。

(5) 「駆け込む」(内部移动)、「冷え込む」(浓密化)、「眠り込む」(胶着化)……

(6) 「持ち上げる」(上升)、「作り上げる」(完成)、「(声を)張上げる」(极度)

……

(7) 「立てかける」(依据接触)、「笑いかける」(心理目标)、「食べかける」(起動)

……

(8) 「突き落とす」(落下)、「競り落とす」(入手)、「見落とす」(失败)……

(9) 「掘り返す」(翻转)、「照り返す」(反射)、「繰り返す」(反复)……

对于存在多种意思的复合动词,有必要描写出不同的V1对于复合动词整体意思的影响以及多种意思之间形成的语义网络。关于这点有很多研究,如森田(1989)、姫野(1999)、斎藤(1985)关于「V1-返す」的研究、南(2015)关于「V1-あげる/V1-あがる」的研究等。今后我们需要将这些研究成果放在类似石井(2007)「複合動詞形成の《アスペクト・ヴォイス》モデル(中译:复合动词形成的《相/态》模型)」这一统一框架中,实现对复合动词整体的系统化研究。

然而,对比下面的(10a)和(10b),我们会发现二者的区别在于:原动词「住む」单纯表示居住在某地,而「住み込む」则表示长时间住在他人的家中,并在该处工作或学习。但是,仅仅对「-込む」贴上“内部移动”、“浓密化”、“胶着化”等标签,非日语

母语者就会想：“既然是长时间住在某处，那么是不是可以说『実家に住み込んでいます』呢？”因此，描写复合动词语义时，不仅需要留意「-V2」的意思，还要留意「V1+V2」整体的意思，对于容易弄错用法的词，必要时应给出误用例进行单独说明。

- (10)a. 彼は生まれたときからずっと実家に 住んでいる/*住み込んでいる。
b. 彼は店長の家 に {*住んで/住み込んで/住みながら} 働いている。

同时，复合动词的多义性并不仅仅是「-V2」的问题，对于同一组「V1+V2」也需要进行观察。例如，像（11a）以工具为对象，「使い込む」表示充分使用并熟悉了这一工具，而（11b）以金钱为对象，「使い込む」则表示花销过多，超过了预算，或者表示私吞了他人的钱或公款。另外，同一个词「置き忘れる」在（12a）中表示“把包放下，忘了带走”，在（12b）中则表示“忘记放下花瓶”。

- (11)a. 革製品は使い込むほどに味が出る。
b. 彼は会社の金を使い込んで解雇された。
(12)a. 彼女はトイレにバッグを置き忘れた。
b. 彼女は会場準備でテーブルに花瓶を置き忘れた。

对于这种复合动词的多义性，需要分两个阶段进行描写，即「-V2」的多义和「V1+V2整体」的多义。

5. 近义复合动词的语义关系

与原动词的情况相同，通过比较近义复合动词之间意思上的差别，可以明确复合动词的意思。例如，「V1-忘れる」、「V1-落とす」和「V1-漏らす」都表示行为的失败，但是观察(13a)~(13c)的例子，我们会发现：「V1-忘れる」表示忘记进行某行为，而「V1-落とす」和「V1-漏らす」则表示虽然准备进行该行为，但没有得到预想的结果。同时，对比「V1-落とす」和「V1-漏らす」，二者在语感上存在这样的差别：「V1-落とす」将对象理解为固体，行为失败的结果导致其被留在外部，与之相对照的是，「V1-漏らす」则将对象理解为液体或气体，行为失败的结果导致其逃逸到外部(参考杉村(2006c, 2007))。

- (13)a. 昨日ラジオを {聞き忘れた/*聞き落とした/*聞き漏らした}。
b. 彼は早口なので重要な個所を {*聞き忘れた/聞き落とした/聞き漏らした}。
c. 先生の話を一言も {*聞き忘れ/*聞き落とさ/聞き漏らさ} なかった。

此外，表示事态开始的「V1-始める」和「V1-出す」，表示事态完成的「V1-切る」

和「V1-尽くす」,表示行为翻转的「V1-返す」和「V1-戻す」等,通过分析这些近义复合动词的意思,可以使各个复合动词的意思清晰化。

6. 存在自他对应的复合动词的语义对应

如(14)~(17)所示,成对动词「直す/直る」、「戻す/戻る」、「残す/残る」、「返す/返る」等类似「車を直す/車が直る」这样,基本上存在自他的对应,而复合动词的「V1-直す/V1-直る」、「V1-戻す/V1-戻る」、「V1-残す/V1-残る」和「V1-返す/V1-返る」等则类似「車を作り直す/*車が作り直る」这样,难以形成自他的对应。关于这点杉村(2009b)援引影山(1993)的“他动性调和原则”和松本(1998)的“主语一致原则”,进行了分析。

- (14)a. 車を直す/車が直る
 b. 車を作り直す/*車が作り直る (「作り直される」可以接受)
 c. 彼を直す/彼が直る
 d. *彼を開き直す (「開き直らせる」可以接受) /彼が開き直る
- (15)a. 本を戻す/本が戻る
 b. 本を買い戻す/*本が買い戻る (「買い戻される」可以接受)
 c. 彼を家に戻す/彼が家に戻る
 d. *彼を家に舞い戻す (「舞い戻らせる」可以接受) /彼が家に舞い戻る
- (16)a. 思い出を残す/思い出が残る
 b. 思い出を書き残す/*思い出が書き残る (「書き残される」可以接受)
 c. 彼を残す/彼が残る
 d. *彼を戦争で生き残す (「生き残らせる」可以接受) /彼が戦争で生き残る
- (17)a. お歳暮を返す/お歳暮が返る
 b. お歳暮を送り返す/*お歳暮が送り返る (「送り返される」可以接受)
 c. *彼に後ろを返す/?彼が後ろを返る
 d. *彼に後ろを振り返す (「振り返らせる」可以接受) /彼が後ろを振り返る

另一方面,也可以找到下面的(18)~(20)这样,复合动词存在自他对应的例子。关于这些例子,影山(1993)和松本(1998)等众多先行研究已经进行过讨论。复合动词的多义结构,以及何种V1+V2的结合中存在或不存在自他的对应关系我们期待能得到更

加明确和统一的说明。

- (18) ロケットを打ち上げる/ロケットが打ち上がる（「打ち上げられる」也可以接受）
- (19) 光を照り返す/光が照り返る（「照り返される」也可以接受）
- (20) 紙を折り曲げる/紙が折り曲がる（「折り曲げられる」也可以接受）

7. 不能使用复合动词的情形

以上第2节至第6节，我们讨论的内容中，有一点共通之处，即：在描写复合动词的语义时，既要说明“什么情况下可以使用复合动词”，要说明“什么情况下不可以使用复合动词”。影山（1993）的“他动性调和原则”和松本（1998）的“主语一致原则”指出了V1+V2结合规则，很有意义。这些规则揭示了复合动词整体的V1+V2结合的普遍倾向，今后我们有必要就各个「-V2」进行详细的描写。

描写不能使用复合动词的情形，对日语教育尤为有益。原因在于，学习者没有母语的直觉，可能会认为既然「殴り返す」能说，那么「*買い返す」也应该能说，「飲み込む」能说，那么「*食べ込む」也应该能说，「駆け上がる」能说，那么「*走り上がる」也应该能说。为了防止和订正这样的误用，我们有必要描写不能使用复合动词的情形。

8. 中国日语学习者习得复合动词的问题

中国日语学习者在习得复合动词时，主要存在下面四个方面的问题。

一、因日语复合动词的意思复杂而产生畏难情绪，不愿使用复合动词，而采用句法结构替代复合动词。例如用「名前を書くのを忘れた」替代「名前を書き忘れた」。

二、过度泛化，生造不存在的复合动词，或者照搬近义复合动词的用法。如学习「～始める」之后，认为也存在「～始まる」，出现「雨が*降り始まる」的错误用法。以为「～出す」和「～始める」相同，出现「*読み出してください」的错误用法。

三、难以区别外形相近的复合动词，如对「取り返す」和「取り戻す」辨别不清。

四、从汉字字面上去理解复合动词，对V1和V2的抽象意义缺乏了解。如仅知道「取り付ける」表示“安装”，但不知道它还能表示“得到”（同意），又如「飛び上がる」较易习得，但「晴れ上がる」较难习得。

9. 对复合动词「V1-返す」的语义描写

本节将在以上论述的基础上, 尝试对复合动词「V1-返す」进行语义描写(具体请参考杉村(2006a, 2006b))。首先, 我们利用 CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』对「V1-返す」的 V1 位置容易出现什么样的动词进行了调查。调查结果如表 1 所示。

语料库 CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』

- ・以日本人作家所著的 67 册为对象。
- ・不包含类似「繰り返し」这样的名词, 但包含类似「繰り返し(説明する)」这样的副词性连用形。
- ・「聞く」、「訊く」、「きく」这类存在多种书写方式的词统一为一个词。

表 1 『新潮文庫の 100 冊』出现「V1-返す」次数 (单词种类数 61, 共 1, 879 例)

	V1-返す	出現数		V1-返す	出現数		V1-返す	出現数
1	繰り返す	747	16	送り返す	13	31	殴り返す	6
2	引き返す	304	〃	吹き返す	〃	〃	握り返す	〃
3	思い返す	149	18	どなり返す	12	33	叩き返す	5
4	聞き返す	108	〃	照り返す	〃	〃	巻き返す	〃
5	見返す	64	20	蒸し返す	11	〃	ほじくり返す	〃
6	言い返す	51	21	混ぜ返す	9	36	投げ返す	4
7	読み返す	46	22	打ち返す	8	〃	奪い返す	〃
8	はね返す	42	〃	弾き返す	〃	〃	見つめ返す	〃
9	問い返す	33	〃	盛り返す	〃	39	笑い返す	3
10	追い返す	29	〃	睨み返す	〃	〃	微笑み返す	〃
11	取り返す	28	26	切り返す	7	〃	辿りかえす	〃
12	折り返す	21	〃	叫び返す	〃	\		
13	押し返す	20	〃	呼び返す	〃			
14	突き返す	16	〃	額き返す	〃			
〃	掘り返す	〃	〃	やり返す	〃			
42	し返す、斬り返す、射返す、蹴返す、いじめ返す、くすぐり返す、(ボートを)抜き返す、(電話を)かけ返す、眺め返す、訊ね返す、訴え返す、(ノートを)めくり返す、調べ返す、こね返す、当て返す、踏み返す、(雷が)鳴り返す、煮返す、(はらわたを)煮えくり返す、(頁を)はぐり返す(各1件)							

原动词「返す」与复合动词「V1-返す」的语义对应如表 2 所示。观察这张表，我们会发现：「返す」和「V1-返す」既有类似②的「畑の土を返す」和「畑の土を掘り返す」这样存在对应的情形，也有类似①的「カードを表に返す」和「*カードを表に向け返す」，或者①的「*失敗を返す」和「失敗を繰り返す」这样两者不对应的情形。

表 2 原动词「返す」和复合动词「一返す」的语义对应关系

本動詞「返す」	複合動詞「V1-返す」
①物の表裏を反転させる カードを表に返す。掌を返す。 (※ ひっくり返す、裏返す、覆す、翻す)	*カードを表に向け返す。
②内部のものを表面に現す(耕す) 畑の土を返す。 ズボンの裾を返す。	①(掘り起こして)内部のものを表面に現す 畑の土を掘り返す。(鋤き一、ほじくり一、*耕し一) …「耕す=田返す」→「*田返し返す」 ズボンの裾を折り返す>(*曲げ一)
③元の状態に戻す 契約を白紙に返す。汚れた川を元に返す。	*契約を白紙に戻し返す>(*洗い一)
④返却する 掘った土を穴に返す。(戻す) お歳暮を(受け取らずに)返す。 借金を返す。	②～して返却する 掘った土を穴に埋め返す。(埋め戻す) お歳暮を(受け取らずに)送り返す。(突き一) ?借金を払い返す。
⑤返礼する、返信する(モノ対象) お歳暮(手紙)を返す。恩(仇、恨み)を返す。	*お歳暮(手紙)を送り返す>(*買い一、*報い一)
⑥相手から受けた行為に対して、それに応ずる行為をする(コト対象) 挨拶(言葉、視線、笑み)を返す。 拳骨(蹴り、頭突き)を返す。	③相手から受けた行為に対して、それに応ずる行為をする(コト対象) 悪口を言い返す。(聞き一、見一、睨み一、笑い一) 相手の頬を殴り返す。(蹴り一、投げ一、切り一) 盗品を取り返す。(奪い一、綱を引き一)

⑦(こちらに向かってくる物を)反転させる 飛んできた球を <u>返す</u> 。	④(こちらに向かってくる物を)反転させる 飛んできた球を <u>はね返す</u> 。(はじきー、打ちー)
*敵を <u>返す</u> 。	⑤(こちらに向かってくる人を)反転させる 敵を <u>追い返す</u> 。(射ー、押しー)
*味方を <u>返す</u> 。(cf.「帰す」)	⑥(向こうに向かっていく人を)元来た方向へ戻す 味方を <u>呼び返す</u> 。(連れー)
*日の光が <u>返す</u> 。	⑦反射する 日の光が <u>照り返す</u> 。
⑧(人が)元来た方向へ戻る 踵を <u>返す</u> 。歩みを <u>返す</u> 。身を <u>返す</u> 。	⑧(人が)元来た方向へ戻る 道を <u>引き返す</u> 。(折りー、辿りー)
⑨(自然現象が)元来た方向へ戻る 波が <u>返す</u> 。	⑨(自然現象が)元来た方向へ戻る 波が <u>寄せ返す</u> 。風が <u>吹き返す</u> 。
*勢力を <u>返す</u> 。	⑩(衰えた勢いを)元の好い状態に戻す 勢力を <u>盛り返す</u> 。(巻きー)
*風邪が <u>返す</u> 。	(病気、天候、問題が)元の悪い状態に戻る (風邪が <u>ぶり返す</u>)
*失敗を <u>返す</u> 。 ?息を <u>返す</u> 。	⑪もう一度(何度も)同じ行為をする(可逆) 失敗を <u>繰り返す</u> 。(思いー、読みー、見ー、煮ー) *夕飯を <u>食べ返す</u> 。(*遊びー、*結婚しー)(不可逆) 息を <u>吹き返す</u> 。前の問題を <u>蒸し返す</u> 。

下面我们来讨论「V1-返す」的语义网络。关于这点，斎藤（1985）有论述，但需要进一步整理。因此，我们考虑表 1 和表 2 的内容，确立三个标准，即：①翻转物体是“回到对方一侧”还是“从对方一侧回来”？②翻转物是“事”还是“对象”还是“主体”？③复合动词是他动词性的「～を V1-返す」还是自动词性的「～が V1-返す」？借助这三个标准可将「V1-返す」的多种用法整理成下图。

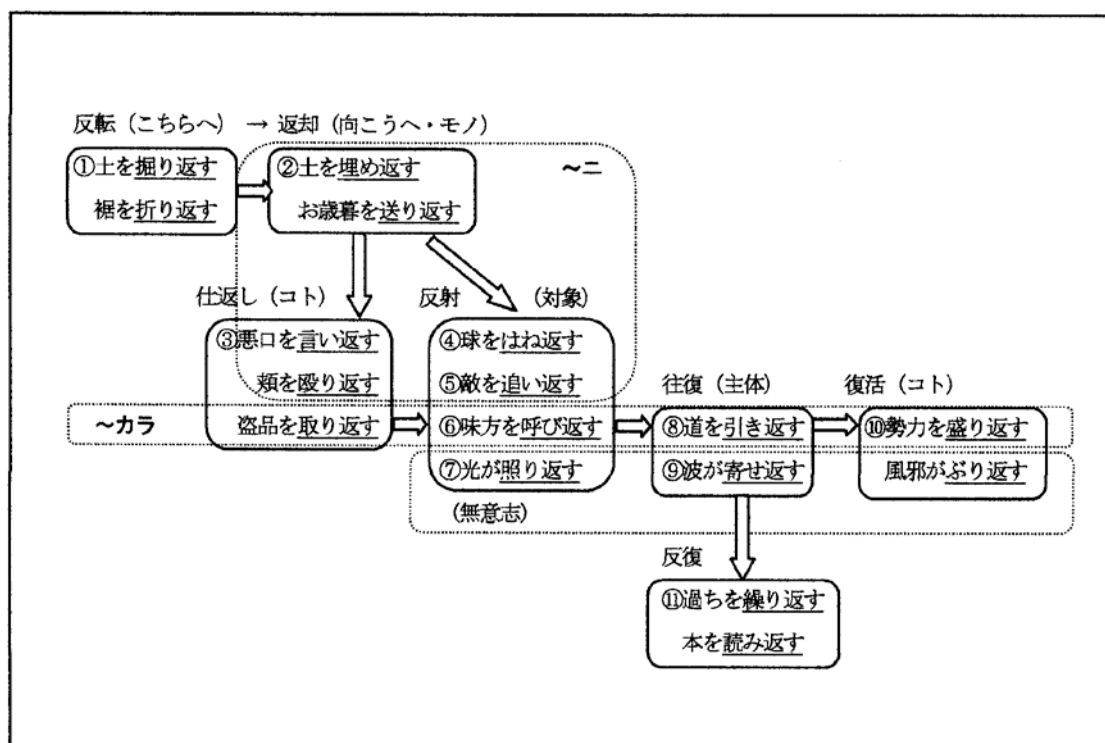


图 「V1-返す」的多义结构

图中③的「取り返す」伴随着对象的回归，与「取り戻す」类似，⑪的「読み返す」伴随着动作的重复，与「読み直す」类似。然而，③的「取り返す」除了对象的回归之外，还有另一层含义，即针对对方的行为进行“报复”，而「V1-戻す」则具有通过 V1 表示的手段，使对象恢复原状的含义。换言之，「取り返す」表示主体对针对对方将某物取走的动作进行“报复”，而「取り戻す」的焦点在于“恢复原状”，也就是使离开主体的物体归还至主体手中。因此，类似 (21) 这种存在掠夺者的情形中二者都可以使用，但在 (22) 这种对象自行脱离主体的情形中只能使用「取り戻す」。

- (21)a. 盗まれたものを取り返す。(对对方的报复)
 b. 盗まれたものを取り戻す。(对象恢复原状)
- (22)a. ?? {青春/信頼/輝き} を取り返す。
 b. {青春/信頼/輝き} を取り戻す。(对象恢复原状)

另一方面，⑪的「読み返す」和「読み直す」相比，「読み返す」可以理解为从「波が寄せ返す」派生的用法，仅表示“读”这一动作的再次重复，而「読み直す」则加上了「直す」所带的修正意识，不仅表示重复相同的行为，还带有一种含义，即较之第一次的行为，第二次的质量更高。

(23)a. もう一度本を読み返す。(回到原来的状态再读一遍)

b. もう一度本を読み直す。(改变读法再读一遍)

接下来看他动词形态的「V1-返す」与自动词形态的「V1-返る」在语义上的对应关系。复合动词「V1-返す」有以下 7 种用法,但都可以理解为派生于表示物体正反面翻转的原动词「返る」。其中,(24)~(26)的「V1-返る」存在与其对应的「V1-返す」,但(27)~(30)的「V1-返る」则不存在与其对应的「V1-返す」。杉村(2009a)有详细讨论,故而在此省略。对于存在自他对应的 V2 的复合动词,我们可以通过分析原动词的自他对应关系和复合动词的自他对应关系这两个方面,进一步明确复合动词的意思。

(24) プラスチックの下敷きが熱で反り返る。(弯曲)(→「(体を)反り返す」)

(25) ズボンの裾が外側に折り返っている。(翻转)(→「(裾を)折り返す」)

(26) ボールが木に当たって跳ね返る。(反射)(→「(ボールを)跳ね返す」)

(27) 彼は別れ際にふとこちらを振り返った。(顾盼)(→「*振り返す」)

(28) 彼は死の淵から生き返った。(复活)(→「*生き返す」)

(29) 彼は初心に立ち返った。(回归)(→「*立ち返す」)

(30) 日曜日は広場に人が溢れ返っている。(极限)(→「*溢れ返す」)

如上所示,在观察「V1-返す」的意思时,不仅要注意能使用「V1-返す」的情形,还要注意不能使用「V1-返す」的情形。表 2 也体现出这点:如能说「畑の土を掘り返す」和「畑の土を鋤き返す」,但不能说「*耕し返す」,即V1+V2 结合时针对V1 的限制;能说「盗まれたものを取り返す」但不能说「*青春を取り返す」,即复合动词对共现名词短语的限制。这些现象,我们需要逐一进行细致的观察。

10. 结语

关于复合动词的语义描写,本文指出至少需要留意下面的 6 点:

- ① 前项动词与后项动词的语义关系
- ② 复合动词与原动词的语义对应
- ③ 复合动词的多义结构
- ④ 近义复合动词的语义关系
- ⑤ 存在自他对应的复合动词的语义对应
- ⑥ 不能使用复合动词的情形

复合动词不仅仅表示两个动词加到一起的意思，而且根据其结合的方式会承担各种各样的意思。但是，并非每个词的复合方式都各不相同，事实上它们可以分为几种类型。如何设定这些类型，以及针对单个词的语义描写工作进展到何种程度，这是复合动词的语义描写中一直被持续关注的课题。

另外，中国日语学习者在习得复合动词的过程中存在不使用、过度使用、不能区别近义词和望文生义的问题，需要针对性地加以改善。

【本文系 2016-2020 年度科学研究费基金课题（基盘研究（C））《中国人日本語学習者におけるポートフォリオ型学習データベースの構築と文法習得の研究》（主持人：杉村泰，项目编号 16K02809）的阶段性研究成果。】

〔参考文献〕

- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 斎藤倫明(1985)「複合動詞後項の接辞化 —「返す」の場合を対象として—」、『國語學』140 集、pp.120-132(左 pp.1-13)、國語學會
- 杉村泰(2006a)「本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について」『ことばの科学』第 19 号、pp.157-165、名古屋大学言語文化研究会
- 杉村泰(2006b)「複合動詞「一返す」の多義分析」『日語教育』第 38 輯、pp.139-159、韓国日本語教育学会
- 杉村泰(2006c)「コーパスを利用した日本語の複合動詞「一忘れる」、「一落とす」、「一漏らす」の意味分析」『日語教育』第 34 輯、pp.63-79、韓国日本語教育学会
- 杉村泰(2007)「複合動詞「一忘れる」、「一落とす」、「一漏らす」の用法」『日語学習与研究』2006 年第 4 期(総第 127 期)、pp.1-6、中国日語教学研究会(編)、對外經濟貿易大学
- 杉村泰(2009a)「コーパスを利用した複合動詞「一返る」の意味分析」『言語文化研究叢書』8、pp.77-91、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 杉村泰(2009b)「日本語の複合動詞における対称性の破れと回復」『日語研究論文集 — 日語研究的新視野 —』、pp.69-94、大葉大學應用日語學系(編)、致良出版社
- 杉村泰(2016)「複合動詞の意味記述に関する一考察」『ことばの科学』第 30 号、pp.127-145、名古屋大学言語文化研究会

- 寺村秀夫(1969)「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト ―その一―」『日本語・日本文化』第1号, pp.32-48, 大阪外国語大学研究留学生別科
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 松本曜(1998)「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』第 114 号, pp.37-82, 日本言語学会
- 南明世(2015)『「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語の複合動詞「V1-あげる」「V1-あがる」の習得研究」』名古屋大学修士学位論文
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店
- 森田良行(1990)『日本語学と日本語教育』凡人社
- 山本清隆(1984)「複合動詞の格支配」『都大論究』21 号, pp.32-49, 東京都立大学
- 由本陽子(1996)「語形成と語彙概念構造 ―日本語の「動詞+動詞」の複合語形成について―」『言語と文化の諸相:奥田博之教授退官記念論文集』, pp.105-118, 英宝社